

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501086		
法人名	社会福祉法人 天光会		
事業所名	天光園グループホーム		
所在地	福岡県大牟田市宮崎1170-3		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果確定日	平成25年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kan=true&gjvsvoCd=4071501086-00&PrCd=40&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成24年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大牟田市北部に位置する当ホームは、閑静な住宅地に隣接しており周辺は自然も多く、入居者の方々には穏やかな日々を送って頂けるのではないかと思います。地域的にも顔馴染みの方からの声掛けがあったり、面会で来訪されたりと、これまでの生活に根づいた環境で安堵感が持てるかと思えます。母体特養との合同行事も行い、併設事業所とは連携も取り易い利点があります。地域密着を踏まえた隣接の団地との交流も理念に基づいて日々繋がりが強まり、月1回の交流会は「さつき会」と住民の方が命名。パン作りや作り等々入居者様を交え和気あいあいと共有の時間を過ごしております。昨年は計画の一つでもありました「合同避難訓練」も実践いたしました。ご家族様も災害対策に地域の力添えがある事に安心頂けるよう努めております。また、個々の健康面や症状緩和に専門医とも連携をとりながら、ご家族様のご協力を支えに全職員がお一人おひとりに寄り添い、心ある温かいケアでお手伝いできるような日々研鑽しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を自然に囲まれた静かな住宅地の中にあつて、近隣の団地などと友好的な関係を築きながら運営されている。その関係の象徴とも言える、地域住民が中心となって開かれた交流会は「さつき会」と名付けられ、敷地内の交流センターで毎月開催されている。地域の方も事業所と一緒に、楽しんで運営にも協力してもらっている。家庭的な生活を理念に掲げる通り、職員は身内以上の関心を持って利用者に接し、ゆっくり安らげる雰囲気と家族関係を大事にしたサービスを心がけている。個別ケアによってやりたいことをしてもらい、リハビリを兼ねた歌などのレクリエーションや体操もみんなで一緒に和やかに行われ、利用者の表情もいきいきとしていて明るい。10年を超える高齢者事業の実績は市からも信頼を得ており、地域からも気に懸けてもらい、頼られる存在になってきた。これからも地域において益々の事業発展と貢献が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念5ヶ条のに基づき、職員間でも話し合いの場を持ち、日々ケアの中で取り込みながらの実践に努めている。	グループホーム独自の5ヶ条の理念を定めており、至る所に掲示している。「地域との交流を深め、外に開かれた暮らし」とあるように、職員も地域の大切さを理解し、地域力を活かし、問題を解決している。理念の通り気持ちにゆとりをもったケアを心がけ、申し送りなどでも意識をするように管理者が指導している。	より一層の理念の活用を進めるために、月々で職員の目標設定をしたり、理念や目標についての話を行うことで、自分たちのケアのあり方、考え方に職員の思いが反映されていくことに今後は期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月1回の交流も「さつき会」と命名し、お互いが楽しみながらの顔合わせになっている。地域の方々温かい心遣いに入居者様も喜ばれている。	3年ほど前から町内会、自治会へと地域交流が発展してきており、住民の知り合いから輪を広げて地域の団地とも今では協力的である。地域団地の草取りに利用者と一緒に参加したり、認知症の講座を開いたり、敬老会にも参加している。夏祭りは地域にも開放して行い、日常的な交流もなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「さつき会」において、地域の方々は入居者様の症状を理解されており、交流中にも支援や声掛けを頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中には地域の方を役員とし、民生員、市担当者、他参加して頂いた方々へは当ホームの生活を伝えており、色々な意見を参考にしサービスに繋げるよう努めている。	団地の代表者や利用者、家族も参加しており、様々な人に呼びかけて、内容も変化してきた。地域代表が中心となってよく意見を出され、地域交流の相談や情報提供を受けたりしており、防災の相談にも非常に協力的であった。議事録の閲覧と家族への報告も始めており、運営に活かされている。	さらに発展的な会議にしていくために、家族から積極的な意見を引き出せるようにしたり、地元消防団や学校関係者などへ参加者の枠組みを広げたり、将来的には地域交流の場ともなるような取組みが今後は期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは日頃の生活も運営推進会議の中から報告等は行っており、他担当の職員の方にも相談を行っている。	市役所の窓口には更新手続きなどで訪問し、指導や相談があった際にもこまめに担当者で連絡がとられている。報告なども折に触れ行っており、運営推進会議の報告も毎回行っている。地域包括とも良好な関係を築いており、入居の相談を頂いたりもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては、日頃より全ての職員と共に話し合い、見守りの重視により施錠を行わない自由な生活を送られる支援を行っている。	日中は玄関の施錠も行っておらず、見守りや付き添いによって自由に外出してもらっている。ベッドの柵なども最低限の利用に留め、離床センサーのみ使用している。拘束に関しては外部講師を招いて年に1回研修を行い、全体で理解を進めており、日常的なケアでも留意している。離設に備えて近所とも協力体制を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内にて学習会を行い、再確認で意識を高めている。		

自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族へは契約時、制度への説明を行った。包括支援センター職員より「成年後見制度を学ぶ」研修を職員と家族が共に学んだ。	地域包括の出勤講座やビデオ研修などで職員の理解を図り、勉強会には家族も参加されている。現在、対象となるような利用者はいないが、資料の配付やポスターの掲示などで制度の理解と活用に備えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今回の改定も万全に説明と承諾を頂いた。入居時の質問にも丁寧に行った。入居後も時間の経過で問題点が浮上した時はその都度行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方々の会話の中から希望を取り入れ、外出や温泉行き等で生活の充実を図っている。家族の中には年数回の当ホームへの宿泊や月1回自宅への外泊の支援も要望を取り入れている。	年に2回、行事や勉強会と一緒に家族会を行い、意見を聞き取っている。来訪が少ない方でも最低月1回は報告や相談の機会を持つようにしており、話しやすい雰囲気の中で、気軽に意見を引き出している。日常的に本人の要望も聞き取り、職員間で共有しており、家族会の意見などは運営推進会議にもあげている。市の介護相談員や地域の傾聴ボランティアも来訪しており、利用者からの意見を聞き取っている。	家族会や地域資源などを活用し、よく意見を聞き取っているが、介護相談員の来訪日が家族に周知されていないので、お便りや掲示などで、傾聴ボランティアや介護相談員のスケジュールを周知させていくことが今後望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所内会議、全体会議、ミーティング等での意見や業務上における提案等は代表者に随時相談を行い反映できるようにしている。	毎月の業務会議やケア会議では活発に意見が交わされており、小さな事でも管理者とは日常的に相談をして、一緒に対策を練ってケアに活かしている。個別面談も年に1回行っており、ちょっとしたことでも言いやすい関係が作られている。全体で協力して、家族の思いや本人の能力を活かしたケアにつなげられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ、目標設定のステップアップに臨んでいる。個々に福祉の意義を理解しつつ、働き易い明るい職場作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用はハローワークを通して行っている。職員の年齢の開きはあるが個々の能力を活かせる場面を多く取り入れている。検診による健康面、メンタル面も良好な環境づくりに努めている。	男性の職員はいなかったが、幅広い年代と経験の職員が協力し合っている。休みの希望なども融通しながらシフトを組み、研修や資格取得にも協力的である。レクリエーションや料理など、それぞれの特技や持ち味を活かしながら働いており、職員の定着率は高い。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待マニュアルを用い所内会議を開いている。入居者の方々への声掛け、言葉遣い、トーンにも配慮している。	マニュアルを利用した尊厳や倫理に関する学習や、法人グループ全体での外部講師を招いた研修を行っている。管理者が外部研修にも参加しており、資料の閲覧を行ったり、ケアの中でも理念をもとにした基本的な意識の徹底を指導している。	基本的な学習は行われているので、今後さらに踏み込んだ理解や教育を進めていくことが望まれる。外部研修からの伝達講習や、人権団体のDVDや資料の貸出を受けたり、人権に関わる映画などを利用者と観賞したりと発展的な推進活動に期待したい。

自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で社労士より、リーダー・新人を育てる講義も繰り返し受講している。ホーム内でもスキルアップを目指し個々の感性を活かす工夫をしている。	
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市からの主催で、『あんしん介護相談員』の意見交換会に毎回出席している。他、地域のネットワークも枠組みが出来、徘徊模擬訓練などで力を出している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるにあたり、ご本人ご家族の思いを聞き取り、それぞれの気持ちを大切にしたい支援により安心されるように配慮している。	
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、家族が不安に思っておられることを察知し、総合的な内容を把握し、信頼関係を大切にしている。	
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いや、これから必要とされる生活での要望を受容し、柔軟な対応をし、近々では通いながら入居につなげた。	
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意分野や残存能力が発揮できる場面を多く作る工夫と、本人の意思決定も重んじ同じ空間で生活しているという思いにつないでいる。	
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症・既往症等の変化時は家族と共に考えながら対応している。本人と家族間がこれまで以上、お互いの思いで良き関係が持ち続けられる支援へと努めている。	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活されていた近所のスーパーにもお連れし、知人との再会にと支援している友人の面会、地域交流でも嫁がれた娘さんと姑さん方との共同作業でも楽しんで頂いている。	入居時に関係を聞き取り、家族や親戚が訪れたり、友人、知人などの来訪もある。本人の状態を踏まえて訪問を依頼したり、働きかけることもある。家族の協力も得ながら、外泊で自宅に帰られたり、馴染みの病院や商店などで知人と会うこともある。

自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最年長98歳を中心に、笑顔が多いに日々が続く。中には食事・トイレといつも一緒にいることで安心される方も居られる。	
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先日も数年前に退居されたご家族の訪問、電話他、入院中の近況報告もわざわざ来訪されるご家族も居られる。退居後も関係作りは大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に応じた望みや思いを把握した対応に努め、困難事例の場合は会議やミーティング等で情報共有に努めている。	センター方式を利用し、利用時にアセスメントを取り、状態を見ながら1年ごとに見直している。家族とも話し合いながら本人の意向をとらえ、丁寧に、日常の会話や表情、仕草などをよく読み取っている。家族にも「よく分かってもらえている」という実感があり、新しいことにも気がつくようになった。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報やアセスメント等により、生活習慣を把握する様努めている。毎月1回ご自宅へ帰省される支援も行っている。	
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活により、お一人お一人の生活リズムを掴み、職員間においても情報の共有に努めている。	
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とも話し合いの時間をもち、取り入れたり面会時にも課題としての内容を察知しながら計画作成に取り組んでいる。	職員一人が二人の利用者を担当し、モニタリングやカンファレンスを行っている。レベルの変化に合わせてケアも対応し、やり方も変えている。日頃から意見交換はこまめに行っており、ケアプランにも細かく反映し、記録への落とし込みもされるようになった。家族とも面会や面談時によく話し合い一緒にプランを作り上げている。傾聴ボランティアとも協力しており、意欲が引き出されて状態の改善につながった方もいる。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人記録の記載に気づきを記し、担当者会議やカンファレンスにより情報を共有し、介護計画に取り入れる様、努めている。	
				職員の気づきのレベルを更に上げていくために、家族へ毎月出している手書きの状況報告のお便りをモニタリングと連動させたり、お便りの控えを取ることで全員で共有し、チームケアの充実を図ることが今後は期待される。

自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に居られるご家族・仕事により都合がつかないご家族が居られたり、又、急変時の受診等に支援を行っている。外出や買い物を好まれる方には希望に応じ柔軟な対応に努めている。			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの一員の紹介で、エステによるボランティアの方にも施術して頂いた。他にも、地域の方からも、野菜の差し入れやホーム他の方々との繋がりが楽しみになれる様、支援に努めている。			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの継続で通院の方も居られる。最近では、与薬の関係で適切さが納得がいかない方には、病院選びをご家族と一緒にいった。認知症の専門医には、相談を積極的にしている。	主治医は、希望するところを継続することが出来る。通院介助は原則、家族に行ってもらい、必要であれば職員が同行や通院介助を行い、受診報告などで相互に連携している。併設の特養の看護師とも協力しており、家族の相談に乗りながら医療支援に努めている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診等により、かかりつけ医への細やかな報告を行っている。急変時は、本体看護師への相談や応援を依頼している。			
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月の受診等により、安心して相談出来る関係になっている。入院の際は、入居者の方が退居へのリスクが高い事も伝えてきている。			
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、及び日々の会話の中で当ホームにおいての重度化や看取りの行為が出来ない事の説明を行っている。	事業所の方針として何処まで出来るかという説明を丁寧に行っている。希望を伺った上で、ぎりぎりの所までは支援している。方針は口頭で説明しており、本人、家族にも納得してもらった上でサービスを行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通緊急救命受講は行っている。これからも事故発生予測を考慮し定期的に行っていきたい。			

自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年より地域・消防署・消防団を交え、本体・当ホーム等との合同訓練を行った。本年度は先日実施し、消防署からの講習も受ける事が出来た。	近隣の団地には夜間の非常時の協力も依頼しており、避難訓練にも参加してもらっている。年に2回消防署立ち会いの下、夜間想定を含めた総合訓練を行っている。併設の特養には備蓄物を確保しており、臨時の避難場所として地域にも提供している。	地域を巻き込んだ災害対策が進められてきているが、連絡網への掲載までには至っていないので、今後は運営推進会議などで相談したり、徐々に地域の協力体制を強めていくような働きかけに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げている内容でもある。まずは、声掛けによる口調・言葉遣いには特に気を付け、尊びの念を持ちケアすることに全職員配慮している。	利用者それぞれの認知の状況にあわせた声かけを行い、馴れによる失礼がないように管理者が指導している。新人には入職時のオリエンテーションで教育し、法人全体でも接遇やプライバシーに関する研修を行っている。羞恥心や自尊心にも配慮したケアに日頃から職員同士でも気に懸けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各々が本来持つておられる人を思いやる気持ちなど、優しい自分が表出される様職員は声掛けにも配慮しながら支援している。その方の意思尊重し、自己決定につないでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いの時間を過ごされておられる。その時の希望に添える事や変動的な気持ちにも対応できるよう努めている。急きょドライブ、買物と支援し、入居者様の心の変化にも臨機応変にと努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力もあり、馴染みの美容室へ行かれる方やご家族の希望で染髪やパーマをかけられる方もおられる。衣類では季節気温に応じたものを一緒に選んで、おしゃれを楽しんでもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度では、入居者様の方から「手伝うよ」とよく声かけられ、残存能力を發揮されてある。メニュー作りも嗜好調査を兼ね話しながら作っている。	バランスを考えながら1週間毎にメニューを作成し、日頃の話の中での要望を取り入れている。毎日新鮮な肉や魚の食材が配達されているが、利用者も食材の買い出しに一緒に行ったり、下ごしらえ、配膳など手伝えるところを手伝ったりしている。職員も同じ食卓で、和やかに食事の時間を楽しんでいた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量等は日常生活記録表にに記載し健康のチェックを行っている。飲み込みや咀嚼が悪い方には、それぞれの形態に応じゼリーやミキサー刻み等で対応している。本体栄養士の指導も受けている。		

自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の定期診療も行っている。毎食後の口腔ケアでは、その方の能力に応じ支援、介助を行いケアチェックも行っている。	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。その方の力に応じてた援助を心掛け、出来るだけトイレでの排泄がスムーズにできるように対応している。	排泄チェック表とケアプランを併せて、個々の状況や排泄リズムを把握している。声かけのときもつぶさにサインを読み取り、検討会によってオムツやパットの利用も検討し話し合われている。状態の改善にもつながり、状況に合わせた適正な利用につなげている。さりげなく、自尊心を傷つけないようなケアを心がけ、声かけなどにも配慮している。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として飲食物の工夫をしたり、毎日運動できるように体操を取り入れている。排泄のタイミングを把握しながら、トイレ誘導を行っている。便秘症の方は医師の指示を受け、対応している。	
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後からを予定としているが、本人の意思確認を行い援助している。浴中もコミュニケーションを取りながら身体確認を行い、気分よく喜んで頂ける様努めている。希望されるときはその方が納得されるように対応し、先日も夕食前の希望があり介助を行った。	基本的には週3日だが、希望があれば回数を増やしたり、足湯によって対応している。リラックスして入浴を楽しんでおり、大切なコミュニケーションの場としても役立っている。循環式の浴槽で、シャンプーなどの利用は希望があれば好きな物を使ってもらっている。拒否のある方も今ではスムーズに入浴しており、入浴時間や順番も人に合わせた対応を行っている。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気・疲労・落ち着かれないときは、リビングソファや居室にて心身を休めて頂いている。一人一人の睡眠パターンを把握し、夜間眠れない入居者様には安眠できるよう寄り添いながら対応している。	
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状は添付しており、個々の既往症にも目を通しており、服薬の変更には記録し申し送りを行っている。その後の体調変化を観察している。	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できられることの喜びで職員より感謝の言葉を添えることにより、笑顔が返ってくる雰囲気が多々ある。そのような中から残存能力を引き出すきっかけ作りを心掛けている。	

自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は食材の買い物やドライブの支援を行っている。個別には希望により衣類・嗜好品の買い物も援助し、全員参加の外出先はみんなで話し合っただけで決めた。地域の行事や運営推進会議により顔なじみになり、散歩に出かけている。家族の協力で病院受診付き添いや食事にも出かけている。	個別のケアによって温泉に日帰り旅行に行ったり、外食で喫茶店に立ち寄りたりされている。日常的にも地域の団地内を散歩して住民と交流したり、車を使って道の駅やコンビニにドライブを楽しんだりもしている。車いすの方も同じように外出し、意欲低下していた方も慣れてきて外出行事を楽しめるようになった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は難しく、殆どの方はホーム預かりである。買い物は財布を預けると正確に支払われる方と病院での支払いが難しい方がおられる。お一人、現金を預けていることの途中確認でその都度安心される。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方におられる娘様から隔日電話の支援を行っている。また、携帯電話を持たれ娘様より週末電話があるので支援を行っている。手紙のやり取りまでに至らないが、お孫さんお嫁さんからハガキ等を嬉しそうに見られる姿もあり、お礼の電話の支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はリビングに集まり、同じ時間を過ごされる事で安心が持てるようである。キッチン是对面式なので、調理しながら対話ができる。リビング壁には、季節に応じた飾りをして、共同作業で作成された作品等を提示している。トイレの場所が認識出来ない方が居られるので、目の高さに表示して対応している。	紅葉や山茶花の植えられた中庭を眺めながら、ロジ風のリビングは落ち着いた雰囲気です。リラックス出来る。利用者の作ったタペストリーや季節の飾りが飾られており、家庭的な雰囲気と木の暖かみを感じられる。利用者はソファで休んだり、テーブルで読書を楽しんだりと緩やかな時間を過ごしていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で過ごされたい方は、個々の思いのまま居室やリビングソファにて休まれている。仲良い入居者の方は多くの時間行動を共にされる程である。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や仏壇・ご家族写真等飾られている。入居前の生活を考え、畳を敷いた部屋作りをされている。四季折々の置物を家族より飾って頂くなど、ご家族の協力が大きい。	基本的には洋間だが希望があれば和室に変えて布団で休むことも出来る。居室の天井も高く、窓も大きいため非常に開放的である。表札は思い思いの物を自由に利用されており、部屋にはテレビや収納棚が備え付けられ、仏壇や家族写真などの持ち込みは自由にされている。全室南向きで採光はよく、過ごしやすい環境が作られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも、目的の場所へ行け、そのことが自信になるよう、居室入口にネームプレート、トイレドアにも分かりやすいよう表示している。		